

『いまに向き合って生きる』

皆さんは、自分が「生きている」という実感をもっていますか。せわしない日常の中でやるべきことに追われ、自分が今日も生きているということなど、いちいち意識している暇はない、という人も少なくないと思います。私も以前はそのうちの一人でしたし、正確には、現在も完全にその状況を打破できたわけではありません。

しかし私は以前より、自分の生きている瞬間瞬間にできるだけ集中して、実感をもって「いま」に臨むことができるようになった気がしています。私がこのような変化を遂げたのは、昨年度ある二つの作品に出会ったことが転機でした。

昨年の夏、私は『メメント・モリ』という写真集に出会いました。題名の「メメント・モリ」というのは「死を想え」という意味のラテン語です。この写真集にはありのままの人間の死と、生命力溢れる自然とが切り取られています。私はこの写真集に触れたことで、死を恐るべき人生の終幕としてではなく、単なる事実として捉え始めるようになったとともに、死にフォーカスするのではなく、今与えられている時間をどう過ごすかが重要なのだと考えるようになりました。冬には、『いまを生きる』という作品に出会いました。この映画はかなり人気があるので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。この作品から得たことはこの場では語りきれないほどあるのですが、この作品の根底にあるテーマ、「カルペディエム」という言葉だけ、ご紹介しようと思います。この「カルペディエム」は、これまたラテン語で、「きょうを楽しめ」という意味があります。

私はこれらの作品を手取るよう、神様に導かれたような感覚があります。「死を想え」と「きょうを楽しめ」というこの二つのメッセージが重なったとき、これらは凄まじい相乗効果をもって私の胸に迫ってきました。そして、日々どのような意識をもって生きるかということが私にとって重要な命題となりました。今、私は人生を自分自身のものとして一瞬一瞬を味わって生きることを目標としています。日々を有意義でできるだけ楽しいものにするにはどうしたらよいかを考えた結果、そのためには自分自身に向き合うことが不可欠であると思うようになりました。自分自身に向き合うために私が実践していることと言えば、日々考えたこと・感じたことを書き留める時間をとっているくらいで、大したことはありません。それでも今まで当たり前のことだと思っていたことや自分自身に関して新たな発見があったりと、「いまを生きる」ことを意識し始めてから、自分の人生に集中した濃厚な時間を過ごせていると感じています。

今でこそ、このような成長を遂げましたが、もうとうとう6年目を迎えた恵泉生活のうちの大半は、日々を味わって過ごし、自らと向き合うのとは程遠く、まるで眠っているかのような日々だったと記憶しています。日々の課題をこなすのに忙殺され、興味のあることに情熱を傾けたり、何かを体得したという感触は、残念ながら思い当たりません。そのような過去も今の自分を形成しているので後悔している訳ではありませんが、少し勿体ない時間の使い方をしたと思っています。今までの恵泉生活の中で、自分に向き合うための機会は少なくありませんでした。しかし、本当の自分から目をそらさずに向き合うためにはかなりのエネルギーと精神的成熟が必要だと思います。私自身、自分を客観視し、深く掘り下げて分析できるようになってきたのはごく最近のことです。

「きょうを楽しめ」という格言を心に刻んでいる私ですが、いつも楽しく過ごせるわけではありません。いまを誠実に生きようとする私の眼前には、大きな壁がそびえたっています。これは、自分に向き合ってよりよく生きようと決意する前から私の心に巣くっていた問題意識ではありますが、自分と向き合い始めたことで、見て見ぬふりができなくなったのです。その問題意識というのは、「できない」ということです。

何ができないのか。人として当たり前に行えるべきとされていることができないのです。「他人に優しく」ができない。いまだに「愛」がよくわからないし、他者に愛をもって接することができない。他にも枚挙にいとまがないほど、私には「できないこと」があります。とはいえ、「自分は何もできない役立たずだ」と思っている訳ではありません。今まで恵まれた環境におかれていたので、周囲の人々に長所として評価してもらうことは沢山ありました。このように文章で表現することにしてもお褒めいただくことはあるので、常に自信满满でいられる訳ではないですが、真剣に向きあえば伸ばすことのできる長所だと思っています。しかし、授業など学校生活では表出しにくい部分で、私は絶対評価としての「できない」を抱えています。つまり他人と比較して自分はこんなにも劣っている、という意識があるというより、このままだと自分で自分を「役立たず」に認定しかねないのです。

試験でそれなりによい点数をとれたとしても、絶望の渦中にあるひとを癒し、支えになることができないならば、私にとってはそんな能力は意味を為しません。こんなに何年もかけて勉強しておきながら、この世界が少しでも面白くなるような、明日も生きてみようかなと思ってもらえるような話をする事さえ、ままならないのです。そのようでは、自分のことを本当の意味で認めることは難しいのです。

私は平静を装うことに長けているような気がします。悩みを友人に相談するようなことはあまりないですし、そもそも基本的に黙っている方が得策だと考えています。わざわざ弱みを見せる必要はないのではないかと。私と関わりのある人たちでも、私がどのように自己を評価しているのかおそらくほとんど知らないでしょう。しかし、もし私と同じように、自分の弱みを見せることに慣れていない人がいるのなら、そのような人たちの「できない」という心の悲鳴は誰が拾うのでしょうか。ずっと一人で抱え込んでいたら、時には苦しくなりますよね。私自身、そのような時もあります。

素敵なひとは何故、清らかに生まれて清らかに育って、愛に満ちた考えしかもっていないように見えるのでしょうか。私は「悪意や負の感情を抱くことはありますか」と尋ねてみたくなる時があります。しかし、このようなことを考えている時点で彼らとの自分の違いを意識せざるを得ません。素敵なひとにだってその人なりの悩みはあるようだし、同じ人間なのでから美しくない感情を抱くこともきっとあるでしょう。しかし、素敵なひとたちの最大の欠点は「非の打ち所がないように見えること」にあると思います。彼らは自分の欠点を表には出しません。私は彼らのようではなく、負の側面を持ち合わせたまま、「素敵なひと」になりたいのです。そして、私に達成できたのだから、あなたにもきっとできる、と伝えられるひとになりたいと思います。できないことをできないと口にするのは器用な生き方ではないのかもしれませんが、私は自分の短所を完全に隠してしまうようなことはしたく

ありません。少なくとも、誰かと向き合うときには自分の欠点を打ち明ける勇気を持ちたいです。なぜなら、自分と同じように欠けがあるひとを見て励まされることがきっとあるはずだからです。

私の「できないこと」は幼いころから教わってきているようなものです。しかし、幼くても理解できたり、実践できるというものではないと私は思います。幼いうちにそれらの物事を教わっているのは、幼い子供の方が素直に吸収できるからという理由もあるとは思いますが、それよりもそれらを時間をかけて段々と自分のものにしていくためだと思います。きっと、誰しもが「人間としてあるべき姿」に自然になれる、というわけではないのです。意識的に自分があるべき方向へと導く必要があるのだと思います。哲学者フロムは著書『愛するということ』の中で愛は自然に湧き上がってくるものではなく、愛は技術であり、学び、実践の中で習得していくものだと言っています。同じことが、人間として好ましいすべての性質について言えると思います。努力によって私たちはより良い人間になれる、ということです。それなら、努力もしないで、「自分には素質が備わっていない」と嘆くのは滑稽な話でしょう。

私は以前感話で「欠けているから個性が形成されている。無理に変えなくてもいい」と、この口で言ったことがあります。振り返ってみると、現在の自分にはそれが綺麗事のように思われます。今の私は自分の欠けている部分をどうにかして、できる限り埋めなくてはならないのですから。それも、「誰かのために役立ちたいから」というようないかにもよい動機ではなく、このままでは自分という存在が揺らいでしまうというどうしようもなく自己中心的な理由が一番にくるのです。それでも、そんな醜い葛藤も全力でいまを生きようとしている証拠なのだと思えます。そう考えると、音楽や小説などではなく自分自身の人生の中で悩み苦しむことができていることがなんだか嬉しいようにも感じられてくるのです。

「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」という聖句を入学当初に教わった時、なんだか借り物のようでしっくりきていなかったことを覚えています。しかし、今、約5年間もの時を経てこの聖句を実行に移しています。この感話を聴いている中に「第二の私」がきっといるはずなので、彼女にとってこの感話が聴いてよかった話、してもらいたかったことになることを願っています。やはり大事な教えというのはこのようにあとから効果を発揮し始めるのでしょう。

言うまでもなく、私のように日々自分に向き合って生きるという選択をするかどうかはみなさんの自由です。しかし、私より多くの時間が残されている4、5年生に特に心に留めておいてほしいのは、「自分は毎日をどう生きたいのか」を考える機会を早くからもってほしいということです。それぞれに最適なタイミングがあるとは思いますが、私自身が「いまを生きることの大切さ」や「自分にはできないことが沢山あること」に気がつくのが

遅かったので、後悔はしてほしくないのです。自分の課題を発見するのが早ければ早いほど、この恵泉で培えるものは自ずと多くなるでしょう。また私のように、遅くなったとしても幸運なことにきっかけに出会えるということが、保証されているわけでもないのですから。他者の考えを素直に聞き入れることは難しいということや、自ら経験することに勝るものはないと私自身、身をもって体験してきました。しかし、この感話のほんの一部でもいいので、「後味」として効いてくるように、心の片隅にとどめておいてください。